



広島大学における研究データ管理の実践

効果的な研究情報整理と共有のための取り組み

広島大学における 研究データ管理の全体像と現在地

研究データ管理の現在地、解決方法としての実践

- 「広島大学研究データ管理・公開・利活用ポリシー」(基本方針)の策定

- 2022年6月21日 教育研究評議会承認

- 現在地

- 広島大学研究データ管理・公開・利活用ポリシーに関する解説（学内限定）
- GakuNin RDMの開発進捗及び他機関の策定状況を参考に、管理・公開・利活用の方針、責務、実施手順を定める
- 全学アンケートを2019年に実施、第2回目の実施を準備中

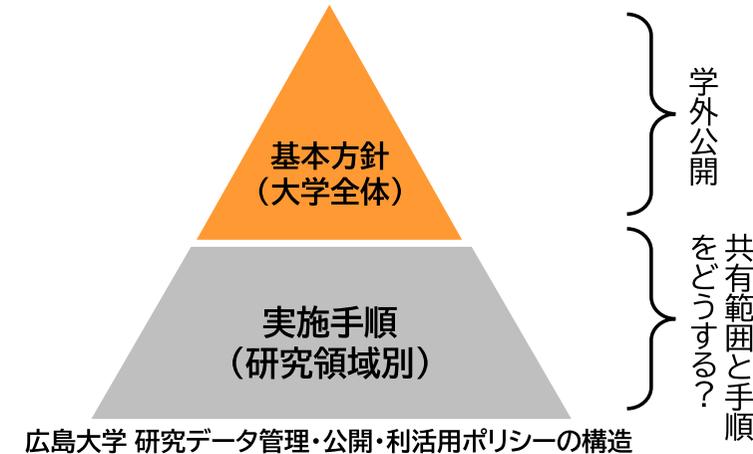
研究データ管理においては、情報部門、図書館が担当してきたが

- 研究領域別に実施手順を定めるためには、研究現場の情報が必要
- 研究データ管理は研究インテグリティ・研究セキュリティに直結、不適切対応によるインシデントは組織の管理責任に直結
- 研究データポリシーを「実装」する具体手段が必要
- 研究者（現場）と大学運営をどう繋ぐか

URAがハブ

<データ管理の実践>

- 研究データ管理（GakuNin RDM）をパイロット実施し（問題点等の洗い出し含め）、全学へ、リスク管理・研究インテグリティの観点で体制整備を目指す



広島大学におけるデータ保存場所

R6年度OA加速化事業で整備

	OneDrive 	Teams 	Proself  Proself	GakuNin RDM (拡張ストレージ) 	事務情報システム 共有フォルダ (OF-2)
保存可能なデータ	個人情報を含む重要な情報 (重要度IV)				
利用シーン	個人で保管する・学内構成員と共有する	グループ (チーム) で保管/共有/作業する・学内構成員とも共有する	個人で保管する・学内外の人と一時的に共有する	個人で保管する・学内外の人と恒久的に共有する (研究データ管理が主)	事務情報システム利用者と共有する
必要なアカウント	IMCアカウント (IMCアカウント@hiroshima-u.ac.jp)			広大ID	事務ID (広大ID@office.hiroshima-u.ac.jp)
共有可能な範囲	IMCアカウント所有者に限定	チーム内メンバー・IMCアカウント所有者に限定	学内構成員・学外者	学内構成員・学外研究者 (学認参加組織)	事務情報システム利用者限定
主な共有方法	IMCアカウントを指定 or 共有URL	チーム内のファイル領域に保管 or 共有URL	IMCアカウントを指定 or 共有URL	プロジェクトのファイル領域に保管	フォルダに対して、利用可能な利用者グループを指定
最大保存容量	100GB (申請により1TB, 3TBまで拡張可能) ※負担金あり	100GB (申請により1TB, 3TBまで拡張可能) ※負担金あり	30GB	100GB + 1TB (標準) (拡張※)	全体で16TB
データの保存場所	個人のファイル領域	チームのファイル領域	個人のファイル領域	研究データ管理サーバ	事務ファイルサーバ

※ 教員 (職員は10GB、学生は利用不可)

上記のほか、Google Drive (Google Workspace付属) もありますが、本学では多要素認証を有効化しているため、OnDriveを含めてGakuNin RDMに接続することはできません。

実践 GakuNin RDM研修会の実施

医学系研究支援プログラム 広島・神戸・熊本 医療革新・研究共同推進イニシアティブ

HK²-MIRAI



全体構想

分野と大学を超えて、“研究する人”を支える仕組み
— 3大学連携による挑戦的若手人材育成と社会実装の戦略拠点 —

世界に通じる最先端医学研究推進

「基礎・臨床」、
「大学の強み連携」
による融合研究推進

共通プラットフォームでのデータ収集、
統合による社会実装
への時短化

オーダーメイド支援
によるPIの研究時間
確保

研究分野と大学の強みを融合する研究推進

- 3大学の強みの3つの「重点研究分野」と4つの「モダリティ」の設定
- POを中心とした「重点研究分野」の融合研究とMLによる「モダリティ」活用の推進
- 基礎・臨床研究の若手PIと若手研究協力者による研究ユニット24組形成

臨床試験
医師主導治験
臨床研究中核病院

PM
事業代表者、事業責任者
HK²-MIRAI推進本部

3つの「重点研究分野」
神経・免疫・運動器
がん・感染症
代謝・循環

4つの「モダリティ」

創薬：ML
再生・細胞医療：ML
バイオ先端技術：ML
AI・医工学：ML

強みを最大限活かすための研究環境整備

- 海外等との研究交流
Stanford大学、Zurich大学、理化学研究所等

研究時間の確保

- オーダーメイド制によるドクターズクラーク・RA/TA/SAの優先配置
- DXによる診療と教育の効率化

若手PI & 若手研究者
基礎・臨床研究者

将来の医学研究を牽引する
若手PIを選抜
連携大学から若手研究協力者参画

若手研究ユニット形成
PI 研究協力者

未来医工学研究
開発センター

国内大学発のワクチン・医薬品GMP製造施設
GMP製造施設
ゲノム編集センター

医学・半導体共同
研究拠点 (MESE)

J-PEAKS

J-PEAKS

J-PEAKS



データ駆動型
研究
研究機関
製薬企業等

DMPに基づく
データ共有プラットフォーム



研究/臨床データの共有化に向けた整備

- 3大学の包括連携協定に基づく相互利用の推進
- AMED推奨の同意書の活用

AMED医学系研究支援プログラムにおける研究データ基盤構築への一歩

目的/位置づけ	医学系研究支援プログラムでの試行を起点に「使えるRDM」を可視化
体制/推進	URAが研究者⇄大学運営を接続 (RDM担当URAの伴走)
情報基盤	GakuNin RDM + 拡張ストレージ (Nextcloud)
運用の要点	プロジェクト単位で共有・権限設定 機関横断連携を想定



AMED医学系研究支援プログラムでの実践試行

医学系研究支援プログラムを対象とした実践型トレーニング

- 広島・神戸・熊本連携プロジェクト【HK2-MIRAI】として、3大学で計24人のPIによる研究プロジェクトが開始
- 研究データ管理・利活用のため、3大学共通の研究データ基盤整備が進められている
- 申請時からのURA伴走で、本プロジェクトと全学構想が噛み合い、全学的RDMを前進
- 3機関で検討し、標準化された研究データ管理プラットフォームであるGakuNin RDMを共通基盤として試行し、PIプロジェクト単位で管理
- PIへ利用してもらうため、本学構成員と神戸大・熊本大のHK2-MIRAI関係者に向け、研修会を実施

国立情報学研究所×広島大学 GakuNin RDM (GRDM) 研修会

開催趣旨

広島大学、神戸大学、熊本大学の連携プロジェクトであるHK²MIRAI(AMED 医学系研究支援プログラム)では、プロジェクトで創出された研究データをGakuNin-RDMで管理運用する方針である。GakuNin-RDMを用いた研究データの整理術、実践的利活用スキルを習得する。

プログラム

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 研究データマネジメント(RDM)の理解 | …座学 5分 |
| 2. GakuNinRDMの基盤機能の説明 | …座学 10分 |
| 3. GakuNinRDMの操作 | …ハンズオン 30分 |
| 4. 質疑応答 | … 15分 |



GakuNin-RDMの操作

① プロジェクト作成	GakuNin-RDMのアカウントでログインし研究プロジェクトを設定する	アカウントは事前に登録設定しておく
② フォルダ設定	研究プロジェクトで実施する研究テーマ単位、データの種別単位でフォルダの設定を実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・管理資料 ・解析データ ・画像データ ・文献情報データ
③ 共有条件設定	研究プロジェクトの構成員を想定し、共有条件の設定を実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・メタデータ(研究データの背景情報) ・研究課題名 ・研究資金情報 ・責任者 ・データ内容 ・個人情報有無 ・利用制限
④メタデータ入力	研究データに関する情報を登録する	<ul style="list-style-type: none"> ・PI:管理権限 ・研究分担者:編集 ・学生:閲覧 ・最小権限原則
⑤ 質疑応答		

2026年2月4日(水)16:00-17:00

参加対象:HK2-MIRAI構成員(広島大学、神戸大学、熊本大学)、広島大学教職員・学生
※17:00以降のセッションは広島大学構成員のみが対象です。

会場:広島大学霞地区+オンライン

参加登録:事前登録が必要です。

<https://zoom.us/join/8AjC2cODR6-DE.n.TIC2rQ>

※登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。
※入室時には表示名を、所属名+氏名にしてください。



広島大学 未来共創科学研究本部研究戦略推進部門

個別研究者インタビューの実施

【目的】 研究現場での研究データ管理状況を知る

対象： J-PEAKSに関連する人文系、基礎/臨床医学系、生命科学系研究者における研究者

- 全体的にデータ量が増加傾向
- 1データ量が多い研究分野での日々の研究データ管理の不安
- 外部資金申請におけるストレージ購入経費の割合の増加
- 研究室運営や、論文投稿に必要なデータ開示のため、個々の研究者では様々なツールを利用

【インタビュー後の所感】

- 個々の研究者で実施している良い事例は共有し、同じ研究領域に波及できないか
- 現場の問題を共有し、大学として取り組むべきことの優先順位を整理
- 研究領域別に実施手順を定める際の参考値とする

URA視点から 得られた知見と今後

研究データマネジメントURA

役割の異なる3名のURAで縦横糸となるチーム構成

具体的な実施内容

■ URA：Aさん

- J-PEAKS事業では連携機関との連携を担当、関連研究者のインタビューを実施
- オープンアクセス加速化事業でのプレ・ポストアワード担当
- 研究担当理事、情報担当副学長と連携し、タスクフォースの構築を企画
- 研究データマネジメント（RDM）担当するURAのチームを組成し、体制整備

■ URA：Bさん

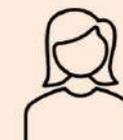
- J-PEAKS事業では医療系研究のマネジメントを担当、関連研究者のインタビューを実施
- 医学系研究支援プログラム（HK2-MIRAI）でのプレ・ポストアワード担当
- 医学系の研究データ基盤構築の取組を担当する教員と連携
- RDM URAチーム、研究担当理事・情報担当副学長とHK2-MIRAIの計画内容を情報共有
- HK2-MIRAI側の担当教員らとも全学における取組を共有

■ URA：Cさん

- J-PEAKS事業では企画運営・渉外調整を担当
- 情報部門との連携を強化
- GakuNin RDMなど研究データツールの理解と研究者への伝達
- 広島大学オリジナルビギナー向けGakuNin RDMとNextcloud接続のハンズオンを担当（全学波及に向けた第一歩）



- ✓ 経営層とつなぐ
- ✓ 体制を構築



- ✓ 学内関係者をつなぐ
- ✓ 研究現場との連結



- ✓ ツールと研究者をつなぐ
- ✓ 現実への落とし込み

データ基盤整備の一つの手段として

研究現場への展開で意識した点

【実施内容】

- PI/若手研究者向けの説明・伴走支援としてのRDM研修会の開催
- 研究者個別インタビューの実施

意識した点

- 既存基盤（GakuNin RDM等）の活用
- 研究データポリシーとの整合性（改定も視野に）
- 『まず使える』レベルでの、ミニマムスケールの研究者群への早期実装、実例づくり
- **早期実装で得られた知見を他部局へ横展開**
- **医学系拠点（霞キャンパス）を起点にモデル構築**

得られた効果と学び

- 研究者のデータ管理への意識づけ
- 情報部門や図書館、研究支援との連携※
- ハンズオンは非常に効果的（特にビギナー向け）
- 破綻しない運用の実装と成功体験の積み上げが、RDM促進に不可欠
- ストレージ容量や権限設定、データの種類・量などに応じて、個々の研究者で多様な管理方法があり、課題も存在
- 全学への波及 → J-PEAKS事業全体への貢献
- 機関間連携モデルとしての試行の可能性

主体	主な役割	ポイント
研究者	データ作成・管理	研究現場で無理のない運用
URA/ 研究支援	要件整理・橋渡し、 基盤構築立ち上げ	研究と制度の 翻訳
情報部門 /図書館	システム・ポリシー	基盤整備、全 学展開

※役割分担の整理（例）

総括

2026/2/17

広島大学 URA 田中久美子

15

総括 ～普及と定着にむけて～

ポイント

ポリシーは組織を守り、研究を進めるが、「現場で使われてこそ」

URAが伴走することで、実装を加速

先行事例を横展開し、全学の研究データ基盤へ

完璧を目指さず、「動かす」ことがポイント

URAがハブになることで前進

「オープンアクセス」の流れでの学内説明は要注意（すべてオープンではない）

「青い芝生作戦」で、外部資金事業を学内改革のレバーに

まとめ

研究データ管理は大学運営の重要基盤

小さな試行（医学系）から全学展開へ

J-PEAKSの枠組みで持続的に推進

既存会議体を活用しつつ、意思決定をスピード重視・・・タスクフォース（構想中）